

市民会館跡地における複合施設整備 基本設計中間案

令和4年4月 白河市

- 01 施設整備方針
- 02 建物の設計思想
- 03 敷地・計画概要
- 04 配置計画
- 05 平面計画
- 06 外観・内観計画
- 07 環境配慮計画

※この基本設計中間案は、令和4年3月下旬における作業内容をパブリックコメント用に編集したものです。

※この基本設計中間案に記載されている施設の概要や計画内容などは、今後の検討の中で変更が生じる場合があります。

はじめに

市では、市民会館跡地に整備する複合施設の配置や平面計画などの建物の概略を示す「白河市複合施設整備基本設計」の策定を進めています。

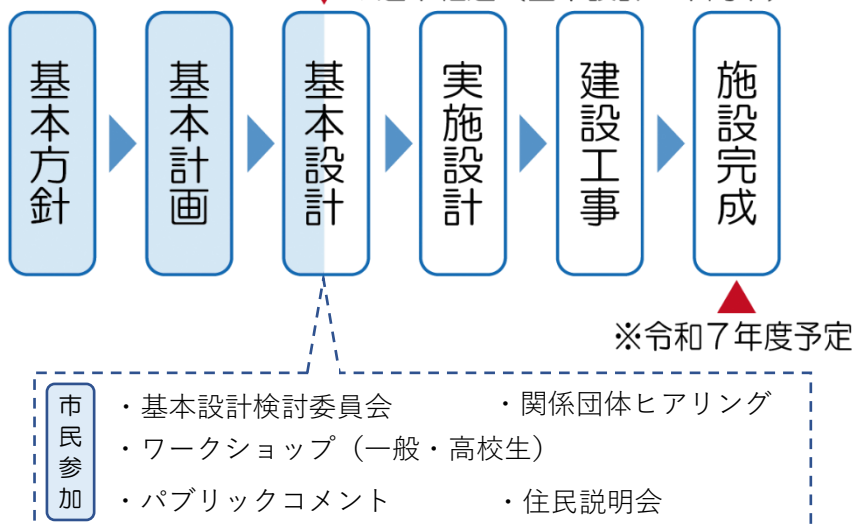
市民等で構成する基本設計検討委員会やワークショップなどにより、意見を伺いながら検討を重ね、このたび、検討段階における基本設計中間案を取りまとめました。

01 施設整備方針

■これまでの経過と今後の予定

令和元年8月 市民会館跡地利活用基本方針 策定
令和3年3月 複合施設整備基本計画 策定
令和3年5月 複合施設整備基本設計 着手
令和4年7月 複合施設整備基本設計 策定（予定）

▼※途中経過（基本設計・中間案）



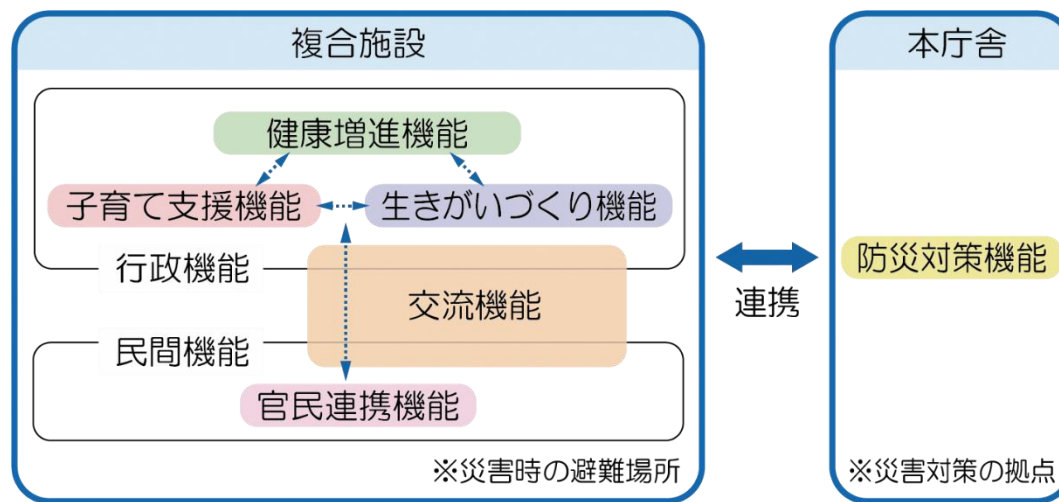
■基本計画における整備コンセプトと整備方針

【整備コンセプト】

みんなの笑顔がつながる ほっとスペース
～みらいの暮らしをつくり、豊かに住み続けられる「まち」の拠点～

【整備方針】

- 健康増進機能、子育て支援機能、生きがいつくり機能の導入、また民間機能、交流機能を導入します。
- 市内の周辺公共施設と用途が重複しない機能を配置し、老朽化した公共施設の維持管理費を抑えられるよう複合施設へ機能を集約します。
- 市民・職員が利用しやすい動線で、市役所本庁舎と一体的に連携できる機能配置とします。また行政機能と民間機能との連携やイベント開催などの非日常の利用実態にも配慮した配置とします。



02 建物の設計思想

空間

効率性や合理性、さらにはデジタル技術の革新により、新たな社会構造が構築されていく一方で、希薄になりがちな人と人の関わりや、人が人として原点に戻るための空間を整備します。

デザイン

柔らかく包み込む包容力や多様な価値観と共生する寛容性を表現し、市民の心の拠り所としての意味を持たせたデザインとします。

景観

小峰通り沿いに面的に揃え、城下町の景観にも配慮しつつ魅力的な建築物となるよう計画します。

【導入機能の概要】

健康増進機能

【保健センター】

市民の健康を支える拠点として、健康づくり、母子保健、食育等、すべてのライフステージに合わせた健康支援を実施。

子育て支援機能

【子育て支援センター】

ワンストップの子育て支援の拠点として、妊娠・出産・子育てに関する必要な情報の提供や相談支援など、妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援を提供。

【ファミリーサポートセンター・ホームスタート】

子育てを手伝って欲しい人と子育てを手伝ってあげたい人が会員になり、お子さんの一時的な預かりや送迎などの子育てを支え合う事業や、研修を受けたボランティアが家庭を訪問して傾聴し、一緒に家事・育児をしながら親に寄り添った支援事業を展開。

生きがいづくり機能

【生涯学習センター】

中央公民館の機能を含んだ生涯学習活動の拠点として、文化活動やボランティア活動、グループの会合等、様々な教室や講座の受講など、幅広い世代の市民活動がより活性化するための魅力的な空間を整備。

交流機能

幅広い年代が自由に利用でき、自然と賑わいや交流が生まれるような空間として、市民交流ホール等を整備。

官民連携機能

行政機能と連携した民間機能（官民連携事業）により、女性に寄り添った就労支援など、地域課題に対応したサービス・施設を導入。

03 敷地・計画概要

■敷地概要

- ・建設場所：白河市手代町及び八幡小路地内
- ・敷地面積：約 15,700 ㎡
(うち計画地面積：約 5,000 ㎡)
- ・用途地域：商業地域
- ・建ぺい率：80%
- ・容積率：400%
- ・景観計画推進区域城下町地区
- ・駐車台数：約 300 台

■複合施設 概要

- ・規模：地上 3 階
- ・建築面積：約 1,800 ㎡
- ・延床面積：約 5,000 ㎡

■立体駐車場 概要

- ・規模：2 層 3 階
- ・建築面積：約 2,000 ㎡
- ・延床面積：約 4,000 ㎡

■市役所本庁舎 概要

- ・規模：地下 1 階、地上 5 階
- ・建築面積：約 2,800 ㎡
- ・延床面積：約 8,600 ㎡

04 配置計画

■回遊性を生み出す建物配置

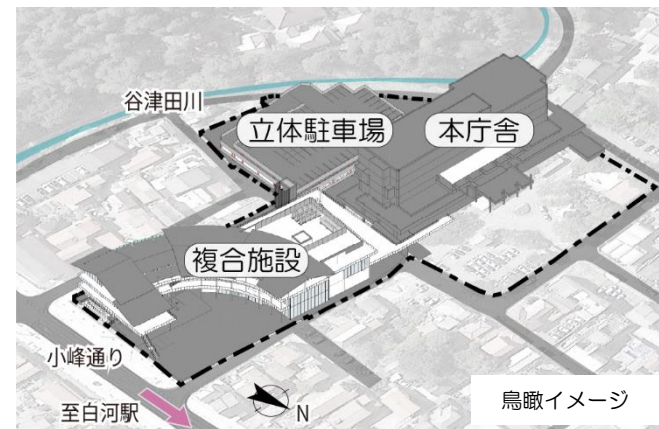
本施設を中心として市内公共施設と連携し、まちの回遊性を創出します。

■小峰通りに現れる新しい白河の顔

本施設が小峰通りに面し、まちなかと調和しながら、新しい景観を形作ります。

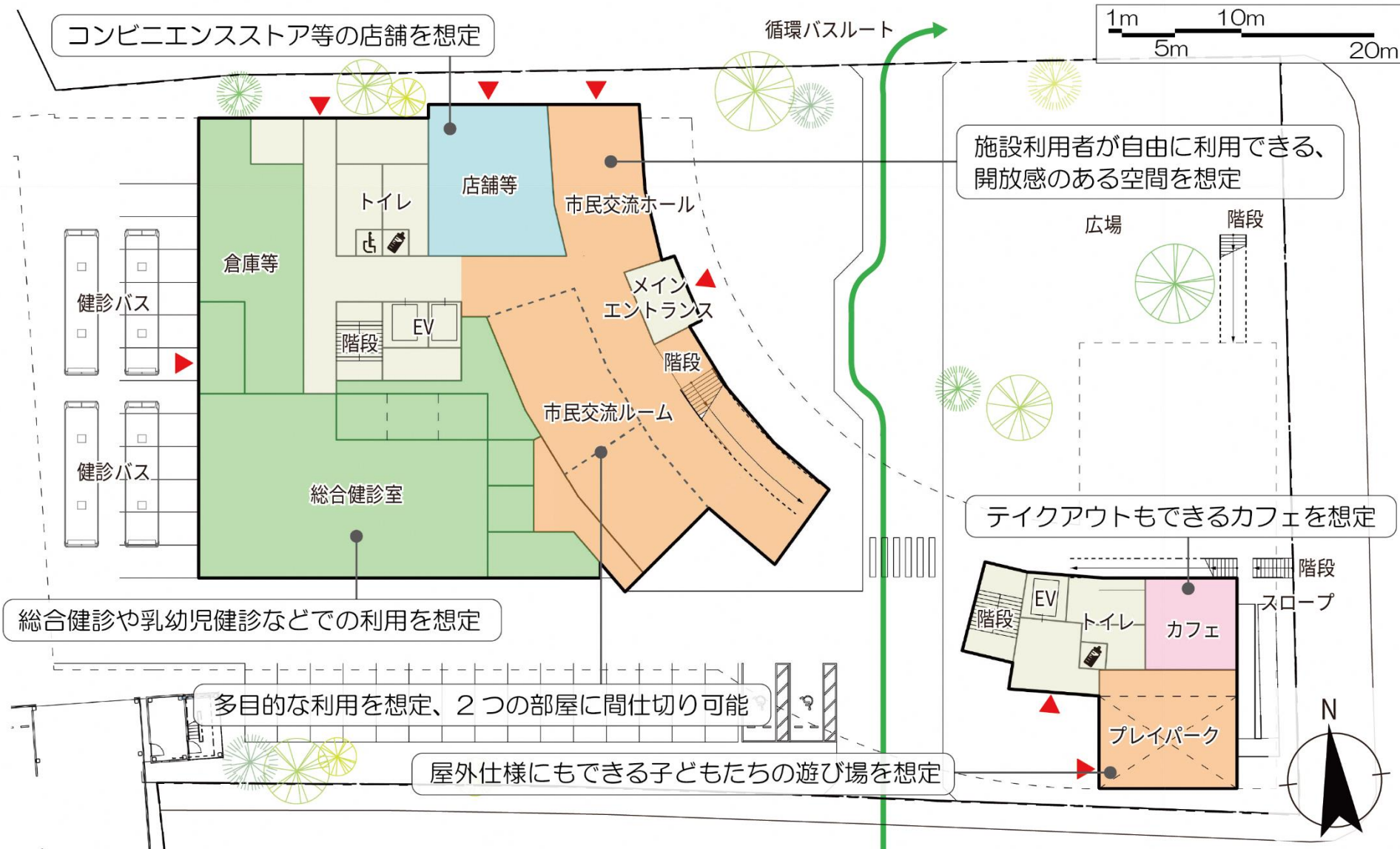
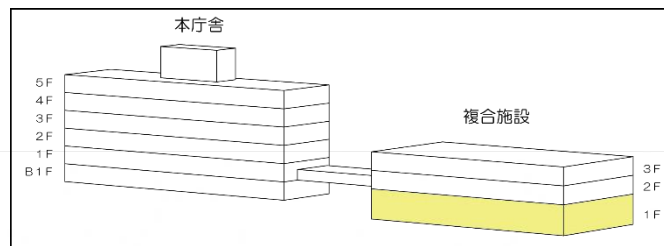
■本庁舎とつながる施設配置

本庁舎と本施設をテラスで繋ぎ、施設間の移動の利便性を高めます。

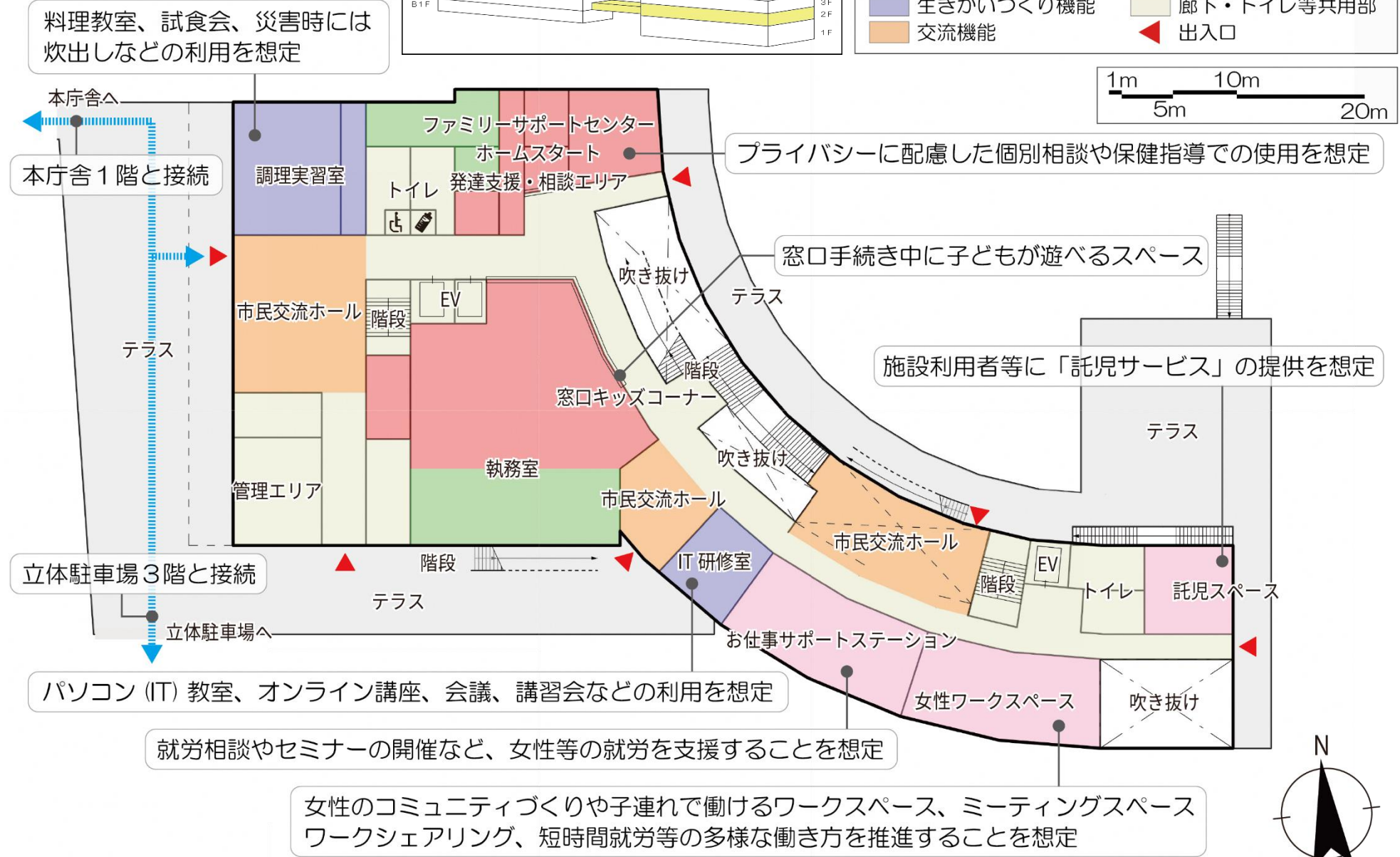
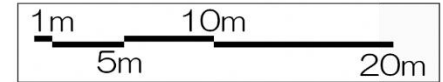
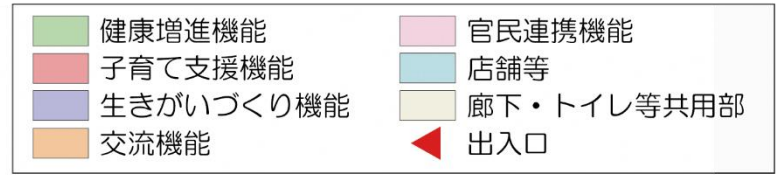
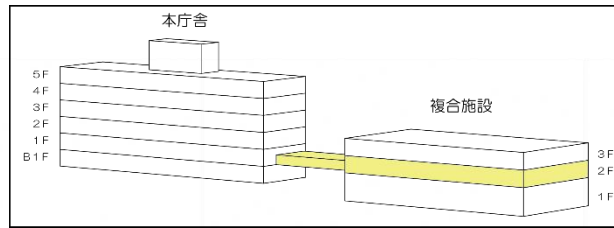


05 平面計画

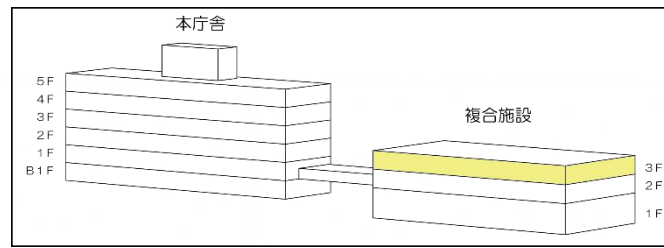
1階



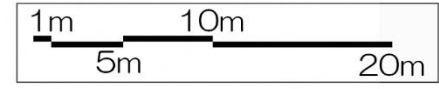
■ 2階



■ 3階



■ 健康増進機能	■ 官民連携機能
■ 子育て支援機能	■ 店舗等
■ 生きがいきり機能	■ 廊下・トイレ等共用部
■ 交流機能	▲ 出入口



施設利用者のための
コピー機等の設置を想定

利用団体の物品等の保管を想定

多目的に利用でき、回遊性がある外部テラス

3層がつながる開放的な吹き抜け

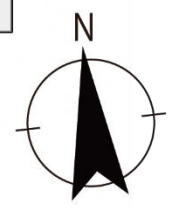
緩やかな曲線により諸室の活動
が感じられる共用部

会議、講演会、展示会、上映会、合唱、ダンス、
楽器演奏、軽運動など多目的な利用を想定。
2つの部屋に間仕切り可能

工作、陶芸、手芸、フラワーアレンジメント、
DIY 教室などでの利用を想定

着付け、茶道、生け花、囲碁、将棋のほか、団体・サークル等
の集会での利用を想定、続き間でも利用可能

楽器練習、合唱、
バンド演奏などでの利用を想定



06 外観・内観計画

■外観デザイン

小峰城をはじめとする昔ながらの街並みに調和しながらも、内部の多様な活動が感じられ、多くの世代を惹きつけるデザインとします。



外観イメージ

■内観デザイン

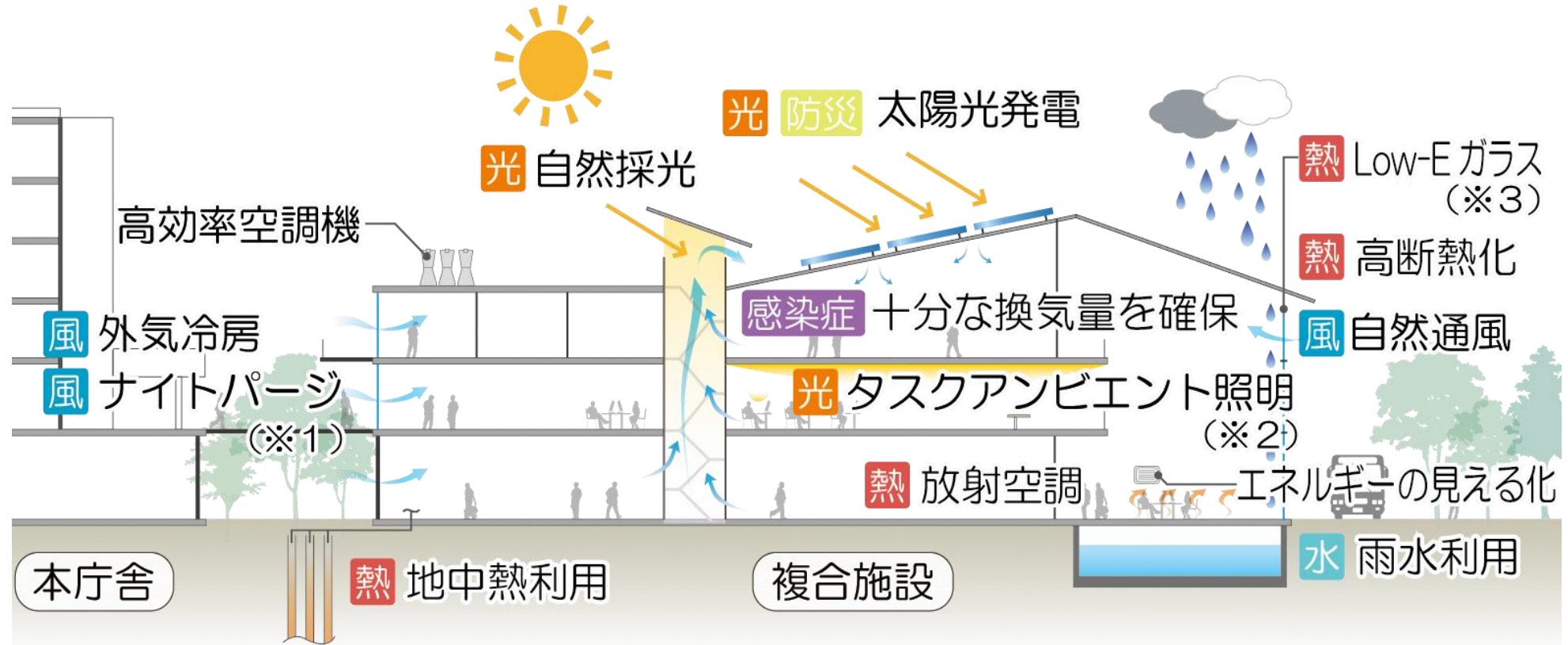
木質系材料等により温もりと開放感がある空間とし、市民の居場所としてにぎわいが溢れるようなデザインとします。



07 環境配慮計画

市では、令和3年10月17日に「ゼロカーボンシティしらかわ」を掲げ、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンチャレンジしらかわ」を目指すことを宣言しました。

本施設では、ライフサイクルコストの低減など環境や経済性に配慮した効率的な省エネルギー設備を導入し、建物エネルギー消費量を50%以上削減する、ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）の実現について検討します。



ZEB 化イメージ図

- ※1 ナイトパーシ：夏場など夜間や早朝の涼しい外気を建物に取り込み、建物に蓄熱された熱を逃がすことで、空調負荷を低減する手法。
- ※2 タスクアンビエント照明：作業（task）領域とその部屋全体（ambient）を、局所照明と間接照明等で快適に照らす照明の手法。
- ※3 Low-E ガラス：太陽の熱や部屋の熱を吸収・反射する特殊な金属膜のコーティングがされたガラス。